

泉 大 津 市

地域産業の振興
「おづいち」実行委員会の取組について



「おづいち」の背景

泉大津市の地域産業である毛布やニット、毛織物など繊維製品の製造・加工関連産業は、優れた技術力を有しているにもかかわらず、自らが商品を販売することが少なく、問屋やアパレル・卸、メーカーなどからの受注に依存してきたため、近年の国内需要の低迷に加え、問屋やアパレル・卸などが海外発注を強めたり、メーカー等が海外進出を行うにつれ、大幅な受注減に陥るなど、深刻な状況へと立ち至っています。

このような状況の中、地域の繊維関連事業者が生き残りを果たすためには、生産現場でしかできないこだわりの商品づくりや、地域ならではの特徴ある提案をし、その製品の魅力を自ら市場に訴えていくといった自立した取組が求められるようになってきました。

はじめに

今年の3月末に、泉大津市の地場産品を消費者に直接販売するサイト「おづいち」がインターネット上にオープンしました。

この「おづいち」は、泉大津市の地域産業である繊維関連の事業者が主体となり、地域のNPO「イズミオオツドットコム」の協力を得て立ち上げたもので、現在9つの事業者等が更なるステップに向けて活動を展開しています。



おづいち online shop

「おづいち」へのみちのり

自らの製品を自ら市場に売り込んでいく、いわゆる直販は、昨年より地域の繊維関連の業界団体が主体となってスタートした地域産業振興ビジョン検討委員会においても重点課題のひとつに挙げられ、その実現化に向けた取組が進められてきました。

同委員会では、まず、今年の1月に重点課題の事業化をめざし、地域の繊維関連事業者を対象とした「事業への参加意向に関する調査」を実施しました。この調査の結果を踏まえ、さらに、直販事業への参加意向や興味を示された事業者を対象に、ネット上で泉大津市の地場産品を消費者に直接販売するサイトの開設を呼びかけました。これに応じた事業者が主体となり、市の補助やサイト構築・運営に関する豊富な知識や経験を持つ「イズミオオツドットコム」の協力を得て、3月末に地場産品の直販サイト「おづいち」をネット上にオープンしました。

今後の展開

このように、「おづいち」は足早にオープンへと漕ぎ着けたわけですが、「おづいち」では今の形態を、あくまでも1つのステップと考えています。

今後は、現状の直販のしくみを地域の事業者がIT直販事業へと参入するためのプラットフォームと位置づけ、多くの事業者のIT直販事業への参入を促すことに加え、参加事業者それぞれが個別のサイトを持つことを支援し、さらに「おづいち」をそれら個別のサイトのポータルサイトとしてバーチャルモールを形成することによって、地域の事業者が問屋やアパレル・卸などの影響下から自立化を図る流れをつくっていきたいと考えています。

「おづいち」のインパクト

百有余年の歳月を経て地域に形成されてきた産業集積と新しく地域で芽吹いたNPO。これらはいずれも泉大津市にとって何ものにも代え難い資源であると言えます。こうした地域に培われ蓄積された新

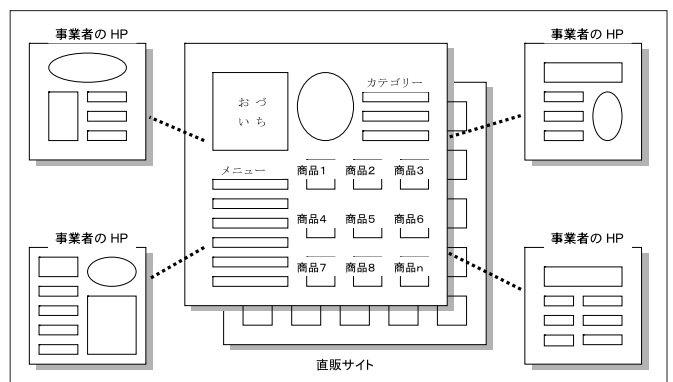
旧の地域資源が手を結び、行政と三位一体で地域の振興をめざすことは、今後、地域にとっても、行政にとっても、さらにはこれまでもっばら行政が担ってきた公共の役割を再考する上でも大きな意味を持ちます。

また、この取組によって、今までの既存のしくみや組み合わせからでは果たし得なかった何か、今までにない何かが出てくるかも知れません。

少なくとも、この事業はそんな夢や期待を抱かせるような事業であると思います。

そういう意味でも、今後も「おづいち」を注視し、支援してまいりたいと考えます。

現行のおづいち



今後のおづいち

